

令和3年度学校評価について

宮城県立視覚支援学校

本年度の学校評価について報告します。

児童生徒，保護者，来校者，相談支援センターの関係者による外部アンケートをもとに，学校の自己評価を行いました。

自己評価の妥当性と改善の方策について，学校関係者による評価，指導助言を受け，以下のとおりに，令和3年度の学校評価を作成しました。

1 学習指導に関する評価

(1) 評価項目1

個別の教育支援計画，個別の指導計画を作成・活用をとおして，一貫性・系統性のある教育の実践や授業改善に取り組む。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・アセスメントや個別の教育計画作成において，担当教員だけでなく外部専門家として視能訓練士等も加わり，チームによる取り組みができた。
- ・個別面談や教育相談等で得られた情報や一人一人の見え方等に即した計画の作成に努めた。
- ・各教科での情報活用に向け，講師を招いてブレイルメモやiPadのアプリについてなどの情報機器についての学びの機会を設けることができた。

3) 改善の方策

- ・個別の支援計画や個別の指導計画の修正，評価を適切に行うことができるように複数の教職員での検討する機会を設けるようにする。

(2) 評価項目2

新学習指導要領のねらいを踏まえ，各学部の教育課程の見直しや感染リスクへの対策を行いながら児童生徒の主体的な学びとなるための指導や授業改善に取り組む。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・研究授業等をとおして，新学習指導要領のねらいを踏まえた授業づくりや指導について複数の教職員で授業改善に取り組むことができた。
- ・ICTを活用した他校との交流学習や防災についてのオンライン学習等を実施することによって，コロナ禍においても児童生徒の主体的な学びとなるための授業改善や社会体験を行うことができた。
- ・感染防止対策を組織的に行った。特に給食の配膳，下膳等で衛生面に配慮し，食

堂内では三密を避けるなど、基本的な感染症予防対策を行うとともに、飛沫が届かないように座席を配置し、会話を控える等の環境を昨年度から継続して実施した。

- ・各教科の指導において、一人一人に応じた指導内容・指導法の工夫に努めた。

3) 改善の方策

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、コロナ前の教育活動の目標が達成できるよう工夫しながら全教育活動に継続して取り組む。
- ・保護者へ懇談や通信等を通して児童生徒の学習状況や内容、配慮や支援内容等を伝え、教育活動への理解を促し、学校側と保護者が同じ方向を見て幼児児童生徒の学びを支えられるようにする。
- ・仮設校舎への移転を考慮して、安心安全な学校づくりを全教職員が共通理解し、効果的な教育活動が遂行されるための様々な環境整備を組織的に取り組めるようにする。

(3) 評価項目3

視覚障害教育の専門性と系統性のある授業実践を目指し、研修や研究の機会を通して教員同士で学び合い、児童生徒が主体的に学べる授業を展開する。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・職員研修において感染予防のためリモート研修機器設定や三密を避けた状態での研修体制を整えることができた。
- ・入門研修、授業見学、授業研究、外部講師を招いての研修等を通し、学び合い、指導力の向上につながるような取り組みを行った。
- ・国家試験の出題傾向を踏まえ学習内容の精選を徹底し、計画通り進めることができた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら入門研修、基本研修、専門研修を実施することができた。
- ・現在の教育的ニーズに沿った校内の研究テーマを設定し、研修を行い、各学部、教科ごとに研究テーマに合った実践を行い、結果を実践集としてまとめた。

3) 改善の方策

- ・視覚障害教育の専門性の高い教員や視覚障害のある教員による助言を得ながらの授業づくり、研究授業等、学部を超えた授業改善等に取り組めるようにする。

(4) 評価項目4

幼稚部設置にあたり、教育課程や運営計画、環境等を協議し開設準備を計画的に行う。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・短期間の準備期間であったため、多くの協議内容を丁寧に協議する時間を設定で

きなかった。

3) 改善の方策

- ・各種委員会の運営については、計画的に運営できるように日程や内容等を精査する。

2 生徒指導に関する評価

(1) 評価項目1

いじめの未然防止や早期発見に努め、思いやりや助け合いの心をもって行動する児童生徒を育てる。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・いじめアンケート調査や担任、SC、養護教諭らと情報を共有しながら、児童生徒の様子について把握できるようにした。
- ・各行事等の活動を通じて、児童生徒に達成感や所属感などを実感させることができ、人間性を育てることができた。

3) 改善の方策

- ・今後もいじめの未然防止、早期発見に努め、SNS での誹謗中傷やコロナ禍でのいじめや差別などを絶対に行わないよう指導を継続して行う。
- ・嫌な思いをしている友達を見て、周囲の児童生徒がいじめがあると考えた時に、声に出すことができる学級づくりや教師との信頼関係をさらに高めていくなどして、いじめの未然防止につなげていく。
- ・保護者へのいじめの未然防止についての理解啓もうや学校での取り組みを懇談会やお便りなどで丁寧に伝えていく。

(2) 評価項目2

児童生徒の協同的な活動や行事への積極的な参加を促し、豊かな人間関係を育む。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・新型コロナウイルス感染症により、ライブ配信とオンデマンドを組み合わせた文化祭の開催や縦割り活動による運動会（ポッチャ大会）を開催した。

3) 改善の方策

- ・児童生徒、保護者ともに学校行事や部活動に対する意欲、関心は高いと感じている。児童生徒数の減少、障害の多様化、感染症拡大により、集団での活動に制約あることを念頭に、児童生徒一人一人の個性が発揮できる機会を工夫したい。

3 進路指導に関する評価

(1) 評価項目1

個々の進路目標を的確に把握し、ニーズに応じた情報収集と指導に努める。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・多様な生徒のニーズに対して、個別的な対応ができるように進路指導部と担任が連携協力しながら情報収集に努めた。
- ・各学部において志教育の視点から、社会体験学習や現場実習等を実施することができた。
- ・将来の社会生活について主体的に考えられるように、キャリアパスポートの作成に取り組んだ。
- ・国家試験対策と就労定着に向けて、実力考査や補習等や主体的な進路選択に向けた職場見学等を計画的に実施した。
- ・各学部に進路指導部員が所属し、学校全体で見通しを持ち一貫した指導を行うという視点をもって部会等で情報を共有したり、連携したりした。

3) 改善の方策

- ・児童生徒の発達段階に応じた進路指導の検討や進路選択に向け、児童生徒・保護者への幅広い進路情報の提供に努める。
- ・面談や懇談会等の機会を通して、児童生徒や保護者のニーズを把握し、それに応じた継続指導ができるようにしたい。

(2) 評価項目2

関係機関と連携を図り、児童生徒に必要な進路行事を計画的に実施する。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・小学部段階からの進路や仕事への意識化を図るため系統だった進路指導を検討・整理を行い、企業や福祉関係等の情報収集や学校見学会等を実施した。
- ・オンデマンドでの進路講演会を実施してニーズに合わせた情報提供を行った。

3) 改善の方策

- ・コロナ禍を想定してオンラインによる進路懇談会や進路に係る各種会議の開催及び情報提供の促進を図っていく。

4 外部支援等に関する評価

(1) 評価項目1

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・関係機関とのネットワークの構築や県内の視覚障害者や弱視学級設置校化等のニーズへの適切な対応に努めた。
- ・コロナ禍で来校相談等の実施困難な状況が続いたが、緊急性の高いアセスメントが必要なケースなどについては、可能な限り相談支援を行うことができた。

- ・コロナ禍を避け、延期して実施した『弱視学級等交流会』では、弱視学級に子どもを通わせている保護者の日頃の悩みを聞いたり、保護者同士で情報交換をすることができた。また、ニーズに応じて弱視学級や通常学級に在籍している児童生徒の本校の授業見学や授業体験は個別に実施し、個々の相談には順次応じることができた。

3) 改善の方策

- ・直接学校訪問での教育相談等を行うことが望ましいが、感染症拡大を想定してオンライン等での実施を検討して教育相談の充実を図っていきたい。
- ・弱視学級設置校への訪問支援や本校主催の研修会や交流会等への参加を継続して行いたい。

(2) 評価項目 2

関係機関等と連携して視覚障害教育の理解や啓発活動の充実に努める。

1) 自己評価結果

B

2) 自己評価理由

- ・コロナ禍で居住地校学習や仙台駅前での啓発物配布が中止となった。しかし、間接交流や保護者の協力を得ながらのティッシュ配布等を行い、地域とのかかわりを持つ機会を設けた。
- ・保健師を対象とした視覚障害乳幼児理解研修会を実施するなど、視覚障害教育への理解、啓発に努めた。
- ・コロナ感染対策のため、保護者を招いてのPTA行事は難しかったが、文化厚生行事は自宅でチャレンジ！研修会と題してのYouTube 動画配信、点字ブロック啓発活動では、啓発ポケットティッシュの設置を保護者にも呼びかけるなど、新しいかたちで実施することができた。

3) 改善の方策

- ・PTA 活動が保護者にとって負担とならないよう配慮しながら、感染症対策を講じながら視覚障害教育の理解や啓発を図っていきたい。
- ・視覚障害教育への理解を図るため、校内や関係機関と連携し計画的に啓発活動に努めたい。